



中
五

パンダ増加傾向に

首のGPS追跡

カメラも

中国・四川省のパンダ保護研究センターが、人間の飼育下で繁殖させたジャイアントパンダを野生に戻す取り組みを進め

さやぶをかき分け、歩くこと15分。野生に戻った。パンダの動向を確認するための赤外線カメラがある

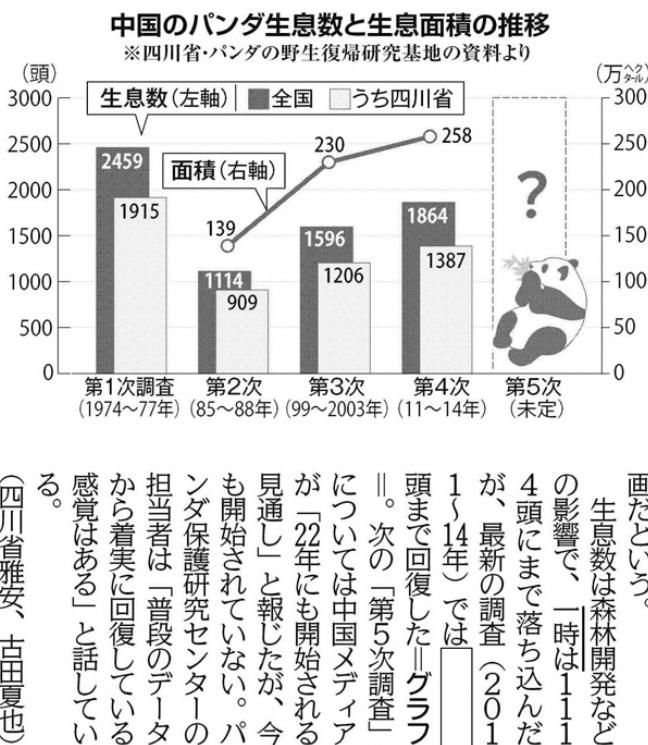
時は、われわれの保護活動に成果があったとみんなで喜んだ」と話した。ジャイアントパンダは中国南西部の標高1,300

中国・四川省のパンダ保護研究センターが、人間の飼育下で繁殖させたジャイアントパンダを野生に戻す取り組みを進めている。世界中で人気を集め、中国文化の象徴にもなりつつあるパンダを絶滅させまいと国を挙げて力を入れており、一時半減した個体数や生息面積は増加傾向にある。

さやぶをかき分け、歩くこと15分。野生に戻したパンダの動向を確認するための赤外線カメラがあるった。

パンダの追跡は主に首次取り付けた衛星利用測位システム(GPS)に頼るが、山間部では電波が届かないこともある。そのため300カ所に設置したカメラのデータを約1カ月ごとに回収して確認している。調査員のAさんは「親子連れのパンダが写っていた

時は、われわれの保護活動に成果があつたとみんなで喜んだ」と話した。ジャイアントパンダは中国南西部の標高1,300～3,500mの高地に生息し、約8割が四川省。世界的に希少で、野生のパンダは中国にしかいない。そのため中国では繁殖の技術を磨いて個体数を増やし、2年をかけて野生に戻すための訓練を行っている。雅安の野生復帰研究基地では現在4頭が訓練中で、今秋には



(四川省雅安、古田夏也)

生息数は森林開発など
の影響で、「時は1111
4頭にまで落ち込んだ
が、最新の調査（201
1～14年）では、
頭まで回復した＝グラフ
II。次の「第5次調査」
については中国メディア
が「22年にも開始される
見通し」と報じたが、今
も開始されていない。パ
ンダ保護研究センターの
担当者は「普段のデータ
から着実に回復している
感覚はある」と話してい

2024年6月19日(水) 朝刊 全道版 8ページ (記事は再編集しています)

① 見出しの「奏功」の意味として最も適当なものを一つ選びなさい。

- ア 日常の行いがよいこと。
 - イ ききめが現れること。
 - ウ 前途を祝って、はげますこと。
 - エ 物事を成しとげ、目的どおりの結果が得られること。

② ぼう線「一時は」とは、いつのことですか。最も適当なものを一つ選びなさい。

- ア 第1次調査
イ 第2次調査
ウ 第3次調査
エ 第4次調査

③ [] に入る数字を、グラフから探して書きなさい。